

平成28年

第4回

市民のためのがん治療の会講演会

いま、なぜがん検診か

がん検診の重要性を知ろう

日時 平成28年9月18日(日) 13:30～16:30

会場 くにたち福祉会館 大ホール

国立市富士見台2-38-5

参加費 無料 参加者に「がんは放射線でここまで治る」進呈

定員 150名 直接会場にお越しください

## 第1部

13:40～15:00

「いま、なぜがん検診か  
がん検診の重要性を知ろう」

講師／西尾 正道（北海道がんセンター名誉院長）



## 第2部

15:15～16:25

「みんなで考えよう、がん検診」  
～ご参加の皆様と質疑応答～

司会／市民のためのがん治療の会

お問い合わせ

市民のためのがん治療の会事務局

TEL 090-3138-9165

## 講演要旨

高齢化率の上昇、農薬・化学物質・遺伝子組換え食品の摂取、福島第一原発事故による「長寿命放射性元素体内取込み症候群」などで発がん増加の生活環境下で日本人は暮らしており、どうしてもがんは増加することが予測されます。

I期で発見されれば局所治療法で9割以上の治癒が望めますが、II期以上の進行がんでは抗がん剤治療も必要となります。手術や放射線治療で局所制御できれば、何よりも患者の身体的・精神的・経済的負担は軽く、結果的に健保財政などにとっても負担軽減となります。

がんが国民病だとすれば、かつての国民病の結核のように、法律で検診を義務付け、100%検診すべきでしょう。検診を妨げる最大の要因は「ひまがない」と「お金がかかる」です。しかし、効率的で充実した検診のあり方により、医療費の抑制とがんで命を落とすことのないがん医療への方向性を考えたいと思います。

講師紹介：西尾 正道(にしお まさみち)

北海道医薬専門学校校長、独立行政法人国立病院機構 北海道がんセンター 名誉院長(放射線治療科)、「市民のためのがん治療の会」顧問、認定NPO法人いわき放射能市民測定室「たらちね」顧問。

1947年函館市生まれ。1974年札幌医科大学卒業。国立札幌病院・北海道地方がんセンター(現 北海道がんセンター)放射線科に勤務し39年間、がんの放射線治療に従事。がんの放射線治療を通じて日本のがん医療の問題点を指摘し、改善するための医療を推進。

## Map



JR中央線・国立駅より

●徒歩 20分

●バス「国立高校前」下車  
徒歩3分

JR南武線・谷保駅より

●徒歩 10分